

第2回 学校関係者評価委員会 議事録

1. 日時

2023年4月27日(木) 18:00~19:20

2. 場所

三条看護・医療・歯科衛生専門学校 会議室

3. 出席者

学外委員

池 穂波委員(新潟県済生会三条病院 看護部長)

坂田和浩委員(三条市総務部情報管理課 課長)

羽生好太委員(三条歯科医師会 会長)

学内委員

白倉政典(三条看護・医療・歯科衛生専門学校 副校長)

浅川淳子(三条看護・医療・歯科衛生専門学校 看護学科副校長)

江田健太(三条看護・医療・歯科衛生専門学校 事務局長)

星野順也(三条看護・医療・歯科衛生専門学校 教務部長)

加藤佐知子(三条看護・医療・歯科衛生専門学校 教務部長補佐)

4. 内容

1) 学校概要(白倉)

2) 2022年度 活動報告 別紙資料に基づき説明(白倉)

(1) 国試・主要認定検定試験結果

・ 国家試験結果 看護師国家試験 合格率 93.5% (全国平均 90.3%)

歯科衛生士国家試験 合格率 100% (全国平均 93.0%)

・ 医療事務学科の主要な受験検定試験はほぼ100%の合格率。

(2) 2023年度学生募集

・ 入学定員115名に対し、102名。定員充足率88.7%

・ 看護学科は定員充足。歯科衛生士学科、医療事務学科は定員に届かず。

(3) 退学

・ 実績8名であった。

・ 理由は、本人の体調、実習が始まってからの自分の適性についての悩み、友人関係などである。

・ 適宜指導を行っている。

(4) 就職

- ・全学科の求職者全員が専門職として内定。87%が県内就職。うち7県央地区が44%。
学校の設置目的・目標に適う成果であった。

(5) 学生、保護者アンケートについて

- ・保護者は学校の情報、家庭との情報共有が不足しているとの声がある。
- ・学生は社会人としてのマナーが身につけていると自己評価している。

5. 学校関係者評価

配布された別紙、「学校自己報告書2022」の要点説明が行われ、学校関係者評価委員会各委員から意見と評価を得た。

1. 教育理念・目標 自己採点評価 3.8

・教育理念、教育指針、各学科の3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、デュプロマポリシー）は定めている。在校生、入学希望者へは学生便覧、募集要項等を通じて周知している。しかし、アンケート結果を見ると、保護者への情報発信は今後も工夫し、進めていく必要がある。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。

委員からの意見)

- ・職場の理念の浸透のため、職員が名札の裏に理念を挟み、様々な機会に全職員で唱和している。スタッフにかみ砕いて説明し、理念との紐づけを考えさせている。(池委員)
- ・毎朝各課で方針を唱和し意識統一を図った。さらに考え方についてまとめたものを配布
毎朝項目ごとに読み合わせを行った。(坂田)
- ・医院ごとに先生の専門が違うため方針も異なる。一例として朝礼で当番制によりスピーチをしてコミュニケーション力を高める。(羽生)

2. 学校運営 自己採点評価 4.0

・学校運営は学則諸規程に則り、進められている。年度単位、5か年単位の事業計画を作成し、月次、年度単位での計画と実績の差異の分析を行いながら進めている。学校内においては学則・諸規程に定められた会議（運営部会、運営に関する会議、職員会）で重要事項の協議が行われ、意思決定がなされる。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。

委員からの意見)

- ・県央地区からの入学生、就職は当初の目標は本来三条市からの目標であったが、県央地区で捉えるとおおよそ達成できている。(坂田委員)
- ・資格保持者が卒業後にどうしているかリスト化が望ましい。復職に向けた取り組みとして希望する。(羽生委員)

3, 教育活動 自己採点評価 3.9

・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は学生便覧に記載され学生に周知されている。授業評価については学生による授業評価アンケートを定期的に行い、担当教員にフィードバックされ、授業改善に反映されている。今年度、医療事務学科が職業実践専門課程の認定を受け、次年度、看護学科、歯科衛生士学科もこの課程認定の申請を行う。業界との連携・情報交換を行い、より中身の濃い教育活動に努めたい。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。

委員からの意見)

- ・実習の受け入れ、またより良い学びに繋がる実習とするためには学校側では学内実習で調整をして実習の仕方を工夫する。コロナになって学内での振り返りの効果を感じた。時間が制限されたなかでやむを得ず学内実習の時間が増えたが、学びが深まったことがわかった。臨地にいる時間を確保することがすべてではない。(池委員)
- ・学校側と実習先との目標のすりあわせ、意思統一を丁寧に行うことが良い実習へは重要。(池委員)
- ・実習について紹介する場を増やす。歯科医師会の例会でプレゼンしてはどうか。(羽生委員)
- ・デジタル化すればするほどコミュニケーション力が求められるため、学校の教育目標である人間力はさらに求められていく。(池委員)

4, 学修成果 自己採点評価 4.0

・2022年度すべての学科で卒業生を輩出した。看護学科国家試験は全国平均を上回り、歯科衛生士学科は全員合格した。卒業生の求職者は全員専門職としての就職をはたした。県内就職率87%、うち県央地区の就職率は44%で、地域に医療人を輩出するという学校理念に適う成果であった。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。

委員からの意見)

- ・他地域からも入学してもらい、この地域に残ってもらうことを目指していくための取り組みとして、大学と専門学校の交流の場、機会を増やしてはどうか。(坂田委員)
- ・就職先としての各職場が魅力的な職場作りをする。(池委員)
- ・地域医療圏が看護師不足であり、この県央地域に新卒の医療人材が残っていることは計画に沿っている。(坂田委員)

5, 学生支援 自己採点評価 3.6

- ・就職支援体制、カウンセリング制度を整備し、経済的な支援体制としての法人独自の奨学金制度、学費の延分納制度を設けている。保護者アンケート等の声では学校と保護者とのコミュニケーションがまだ、不十分と認識している。更に情報発信に努めたい。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。但し、以下、意見あり。

委員からの意見)

- ・全体への発信は難しい。そもそも保護者への発信は必要なのか。保護者は求めているのか。学生達は成人している年齢にある。(池委員)
- ・保護者がこういった情報をどれくらいの人が求めているのか把握するべき。(羽生委員)

6, 教育環境 自己採点評価 3.7

- ・指定養成施設であり、法令に則り施設設備・備品が備えられている。新しい学校だけに、校舎・設備は新しく、教育機器も最新の機材が備えられているために、外部来訪者からの評価は高い。国際化の流れの中、海外の姉妹校提携、海外研修を進めたいが、コロナ禍の中で実行できていない。今後の収束状況を見ながら、是非、海外姉妹校提携を進め、学生の視野拡大に努めたい。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。

委員からの意見)

- ・教員は臨床から離れていることもあり、設備、教育機器を使いこなせているか。

病院から演習の指導に来ていただくことは可能か。(浅川学内委員)

- ・その病院で使用している機器の説明であれば可能。認定看護師が実際の現場での取り組みを伝えることであれば相談に乗れるのではないか。(池委員)

7, 学生の受け入れ募集 自己採点評価 3.7

・学生募集活動はパンフレット、募集要項等を作成し、オープンキャンパスで学校の内容を理解してもらえる機会も頻回に実施している。一方、2学科で卒業生がまだ出ていない2022年度途中においては、教育実績を示すことができていなかった。看護学科は定員充足でき、医療事務学科は前年の入学数を上回ることができた。しかし、歯科衛生士学科は定員充足まではいかなかった。今年度、歯科衛生士学科が国家試験で100%全員合格を果たした結果を告知し、次年度の入学生の定員充足に向けた学生募集に努めたい。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。

委員からの意見)

- ・職業啓蒙が一つの課題である。歯科医師会では何かそのような活動はあるか。(江田学内委員)
- ・今後は歯科衛生士の必要性は高まっていく。歯科衛生士がいないとできない業務がある。そのような点をアピールしてはどうか。(羽生委員)
- ・看護師は認知度が高いが歯科衛生士は職業認知が低い。高校等へ説明に行く機会を持ってはどうか。(羽生委員)

8, 財務 自己採点評価 4.0

・法人として健全な財務状況となるよう中長期で収支計画を立てて運営している。適切に外部監査を受けている。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。

委員からの意見)

特になし

9, 法令等の遵守 自己採点評価 4.0

・法令、設置基準の遵守について、法人本部で窓口となり専門学校担当課と一括して連携している。指定養成施設としての学科は学校責任者が厚生局、県担当課へ定期的に報告、適切に変更承認申請、変更届等の申請手続きを行っている。法令に定められた教員員数は充足して

おり、適正な運営ができています。2021年度の学校関係者評価の実施をし、自己評価の公開を2022年度より行っている。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。

委員からの意見)

- ・ハラスメント案件に気をつけているところである。職員教育はどんな工夫をされているか。(星野学内委員)
- ・研修実施、マニュアル作成。パワハラ、アカハラについてはこちらもしっかりした考えをもって教育に当たる。なんでもハラスメントと捉える風潮では教育活動の中で身動きがとれなくなる。適正な指導であればハラスメントには当たらない。(坂田委員)
- ・かなり知識が必要。管理者が具体的にわかっていなければ必要な指導もできなくなる。管理者への教育を徹底的に行い、職員全員への教育も適度に必要と考える。(池委員)

10, 社会貢献・地域貢献 自己採点評価 3.7

・感染症対策を十分に施しながら、地域貢献、地域連携の学校理念に適う活動を試みた。認知症啓発活動、ボランティア活動等に学生たちが関わった。

SDG sを意識した活動をグループ全体で志向している。今後、更に社会貢献活動、地域貢献活動も進めたい。

学校関係者評価)

- ・学校自己評価どおり。

委員からの意見)

特になし

以上